



安心できる介護・納得できる介護保険・信頼できる制度の実現

会報

NPO 法人 きょうと介護保険にかかわる会

112 号

2020/6/5

発行人 梶 宏 〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町 3-20 賀陽コーポラス 809

TEL・FAX:075-821-0688 E-mail:npokakawarukai@helen.ocn.ne.jp

2020 年度総会報告 ～20 周年から次の一步を～



去る 5 月 23 日、かかわる会の事務所に
おいて 2020 年度の総会が開催された。
今年 1 月に中国武漢に端を発した新型コ
ロナウイルス感染症が瞬く間に世界に拡
大、日本では 4 月 7 日に「緊急事態宣言」
というとんでもない事態に陥った。当会の
20 周年記念事業の西村周三氏による講演
会や祝賀会はやむなく延期となり、通常総
会はひと・まち交流館京都の閉鎖によっ
て、会場は急遽かかわる会の事務所に変
更となった。事務所には多人数が入れる
空間はなく、三密ルールの対策上、出席
人数を少数にとどめたいという制約つき
の案内状と議案書を会員に郵送する稀
有な状況となった。

総会は理事会メンバーを中心に 11 名
が出席、伊藤理事の司会で始まった。最
初に梶理事長の「まさかこういう事態が
起こることなど想定していなかった。私
の一生では敗戦という事態以来の出来事
である。この時期に 20 周年の総会の開
催となった。お陰でよく 20 年もこの会
が続いたと思う。皆さんの参加意識に
は深いものがあり嬉しい限りだ。これ
からも本会をしっかりと続けていきたく
い」の挨拶があった。併せて出来上がった
ばかりの 20 周年記念誌が披露され、世
間の皆様に誇れるよいものができたと
編集人に謝意を表された。

議長に小中敬三氏が選出された。出席
11 名、委任状 61 名（会員数 82 名）で

総会成立が確認された。議事に入り、
小栗事務局長が議案 1～5 を提案され全
て承認された。2019 年度は研修会が 100
回目を迎えたこと、第三者評価事業で
は 24 の事業所から受診申し込みがあっ
たこと、会報やホームページの充実が
図られたこと、20 周年事業に取り組ん
だこと、そして財政面では僅かな赤字で
済んだことが報告された。2020 年度は
前年度と同様、市民目線に立った諸事
業の展開、会員増にも力を入れたい。20
周年記念講演会は時機を見て実現した
いと提案された。

当日出席できない会員からは多数のメ
ッセージが寄せられた。「20 周年おめ
でと」「この時機、大変お世話様です」
「ご苦労様です。議案書は完璧で何も言
うことはありません」「頑張れ、ガンバ
レ」「皆様の活躍、会の発展を願って
います」「30 周年を目指してください」
「改悪の現実を見極めて行動を決意す
る必要がある」「このたび入会しまし
た、よろしく」「コロナ禍の影響で三
評の受診件数減が心配」「長い間お世
話になりました」等々

総会も無事終わり先行きの不安を抱え
ながらも 2020 年度がスタートした。今
回は会場も制約され、会員同士が顔を
合わせ、集い、話し合うことのでき
ない不自由さを痛感する総会となっ
た。

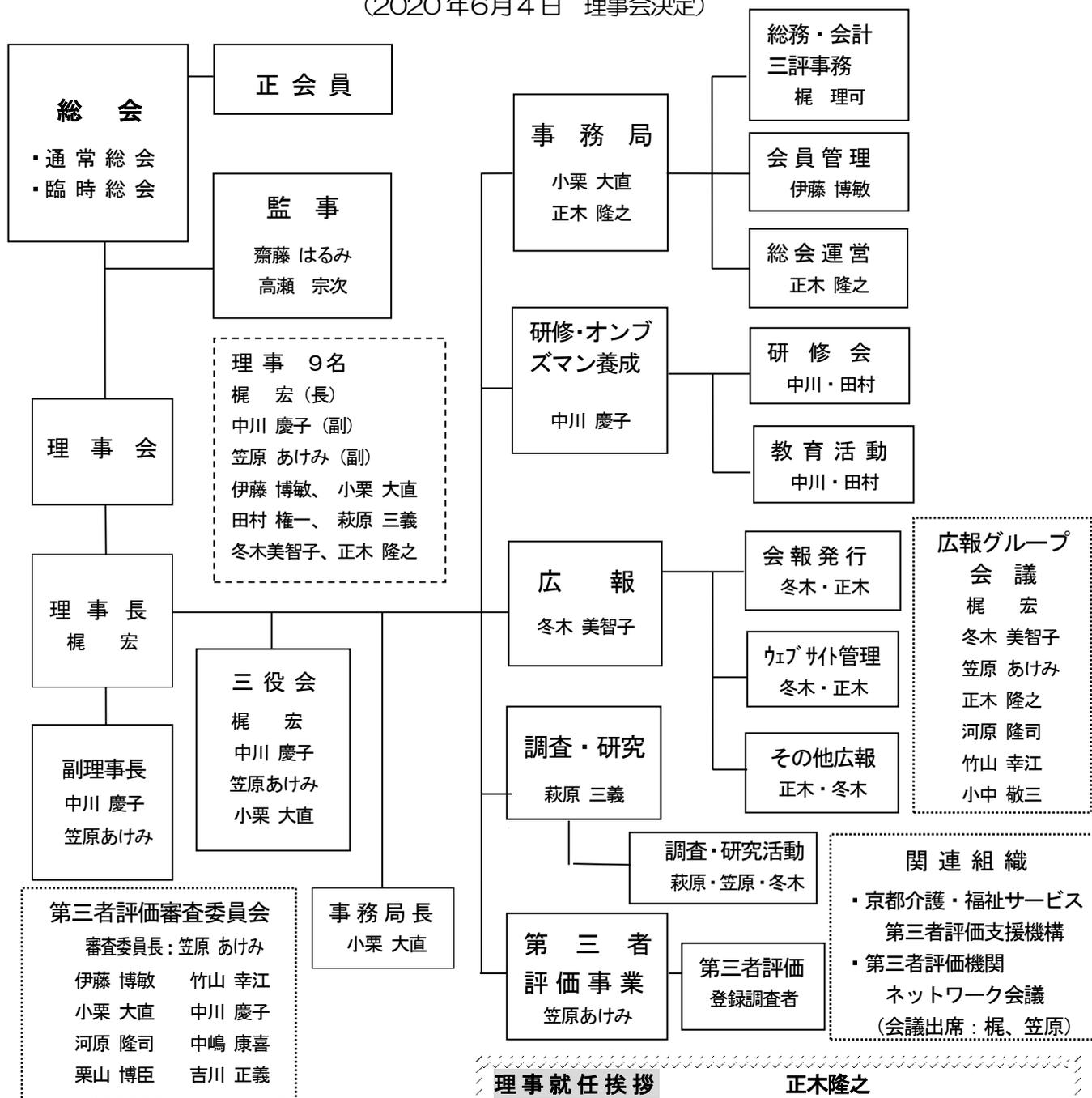
(中川慶子 記)

緊急
特集

新型コロナ禍における介護現場から
～介護事業所スタッフ・介護家族の声～ p3～7

きょうと介護保険にかかわる会 組織・業務担当図

(2020年6月4日 理事会決定)



理事退任挨拶

藤井みさ子

2012年度より2019年度まで、当会の理事として第三者評価の担当をさせて頂いてまいりました。皆様には多大なご協力、ご指導を賜り、心より感謝申し上げます。三評では受診して下さいました事業所から、今後とも宜しくとの声も多く頂いています。今は世界、日本そして医療現場、介護現場も大変な状況ですが、落ち着いた頃より、また当会の三評を宜しく願います。皆様のご多幸、当会の益々のご活躍を祈っております。ありがとうございました。

理事就任挨拶

正木隆之

この度、縁あって当会の理事に就任しました。今まで介護保険にまったく関心を払ってこなかった私に、はたして理事が務まるのかと逡巡しましたが、知識も経験も豊富で問題意識の高い先輩方を見ていると、一人くらいこういう無学で関心の低い者がいた方がいいのではないかと思うようになりました。

近年、さまざまな場所で「分断」が語られますが、福祉においても関心のある人とならない人との間には深い溝が横たわっているような気がします。介護保険は制度ですから、それを変えるには政治の力が必要です。政治が世論を原動力に動くのであれば、この深い溝を丁寧に埋めて賛同者を増やす以外に、介護保険制度を望ましい形に変えていく方法はないでしょう。

無関心層の代弁者として、かかわる会に波風を立てて行きたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。



新型コロナ禍における介護現場から

～介護事業所スタッフ・介護家族の声～

新型コロナウイルスが猛威を振るっています。三密を避けるようにと声高に叫ばれていますが、介護は人と人との間で行われること。距離が近く接触度も高くならざるを得ません。

介護の現場では今何が起きているのか。特に困っていること、今回のことから学んだこと等について介護事業所で働く会員、要介護者を家族に持つ会員から切実な声を頂きました。

毎日が崖っぷち

ホームヘルプ事業

1月16日、日本で初めてのコロナウイルス感染者の報道・・・

京都は多くの観光客で相変わらず賑わっていました。

同時に、海外からの情報でコロナウイルスが世界的に流行しそうだ、SARSやMERSの時のようにとの報道を耳にしました。正直、これは非常に危険だと直感で私は動き出しました。

衛生用品(サージカルマスク、消毒液など)の確保は残念ながら既に遅しの状態でした。

数日前までインターネットで購入可能だったサージカルマスク、消毒液、使い捨て手袋などは購入ができなくなっていました。衛生用品は何時になれば購入可能なのだろうか？

色々な情報が飛び交う中、何を信じ、何をすれば良いのだろうか？不安との戦いが始まりました。ヘルパー事業を運営している私の法人は、感染症対策の為に、

いち早く職員にサージカルマスクの装着、うがい手洗い用の衛生用品を配布し、感染症予防に努めてきました。

備蓄品のサージカルマスクや消毒液など何とかある分でやり繰りしながら、いよいよマスクも洗いながら使いまわしをしないといけないと思っていたところ、地域の皆さんからのご厚意でサージカルマスクの寄付を頂いたり、消毒液を分けて頂きながら何とか今現在ギリギリ崖っぷちの所で踏ん張っています。世間は、ステイホーム、外出

を自粛などと呼び掛けていますが、私たち福祉介護従事者には全く該当しない話。毎日、ホームヘルパーさん達は危険と隣り合わせの中、利用者宅への訪問を続けています。

個々の自宅へ訪問するホームヘルパーは、あらゆるお宅へ訪問し出入りをする訳ですから、常に三密、自分達が濃厚接触者になったらどうしようと不安だらけです。

毎日毎日繰り返す検温、うがい手洗い消毒、両手はガサガサです。自宅に戻れば玄関先で衣服を脱いで即入浴し、身体の清潔保持も入念に行います。体調管理に発酵食品(ヨーグルト・納豆など)を多く摂取するなどの工夫もしながら病気にならないようにしています。

ただ、私たちの努力でもどうする事も出来ないのが、感染症対策で必要なサージカルマスクや消毒液、医療用ゴーグルやガウンなどが入手できないことです。

国や自治体からは、何度も衛生用品の備蓄状況についてのアンケートが送られてきましたが、この数か月の間、自治体から配布されたサージカルマスクはたったの1事業所14枚のみでした。消毒液を含めたその他の衛生用品については配布が全くありません。衛生用品の経費が非常にかかっており経営を圧迫します。また、利用者さんの一部には、利用を控える動きも出てきており、事業所の経営は非常に危機的な状況になりつつあります。医療従事者には危険手当などあ



りますが、福祉介護従事者には危険手当などはありません。

介護保険 20 年の節目に、色々な活動やイベントが目白押しな中、皆さんに会えないこのストレス。世界的に流行しているコロナウイルスによって生活様式も変容し人と会う事、話をする事など当たり前の日常を送る事ができません。不活発な状況が続くと、人は足腰が弱り物忘れも増えます。収束してからは経済も含めて全てが苦しい状況の下で生活を送らなければいけない。何とも考えるだけで気持ちは沈みますが、今は

ただ、感染しないように、免疫力の低下を防ぐ為に、元気で過ごすほかにありません。

5 月 20 日水曜日、アベノマスクが事務所に届く（自宅には届いていませんけどね）。かれこれ 4 か月近く…怒りを乗り越えて呆れます。

私は少なくともきちんと税金を納めています。10 万円の給付金についてもモタモタしているこの国は、何をやっているのでしょうか？

（京都ヘルパー連絡会 櫻庭葉子）

デイサービスは健康維持のための“命綱”

デイサービス事業

新型コロナウイルス感染の急拡大が始まった 3 月下旬以降、利用者の中には感染を恐れてデイサービスの利用を自粛する気運が現れ始め、緊急事態宣言発出後はその動きに拍車がかかり、GW 前後には平常時の 5 割程度まで利用人数が落ち込むこともありまし

た。最近になって漸く徐々に通所を再開される利用者も増えてきましたが、第 2 波への懸念もあり、まだまだ先は見通せない状況が続いています。

この間、私たちが心配したのは、自事業所の収益もさることながら、自宅で外出自粛を続ける利用者の健康への影響でした。元来デイサービスの利用者は、外出機会が乏しく活動性が低い、自宅での入浴が難しい、自ら健康習慣を励

行することが苦手など、デイサービスを健康維持のためのいわば“命綱”にされている方々です。したがって利用しなくなれば、感染とは違ったかたちでの健康悪化リスクを背負うこととなります。



現在もなお利用を自粛している利用者には、電話や訪問により安否や生活状況の確認を行っていますが、やはり持病のある方などは再開に慎重です。勿論、できる限りの感染防止対策は講じていますが、本来は利

用者にとって安全な居場所であるデイサービスが、危険な場所となりうる現状に得も言われぬ悔しさを感じる日々が続いています。

（株式会社銭形企画 デイサービス銭形

上原啓介）

開所以来続けていた標準予防策が役立った

デイサービス事業

新型コロナ感染拡大の影響により、大変な緊張の中、毎日を送っています。今回、会員の皆様に現状を伝えてほしいと、かかわる会事務局より依頼がありました。そこで、デイサービスでとくに困っていることを 3 つにまとめてみました。

◆マスク・消毒用エタノールが手に入らない（本当に困っているとき行政は頼りにならない）。

◆ボランティアさんに来てもらえない（外部の目が入らず、サービスの質を客観的に評価して

くれる人がいない）。

◆マスクの弊害（難聴者にはマスク越しは余計に聞き取りにくい。また、表情がわかりにくく、コミュニケーションがとりにくい。息苦しく、酸素不足になって、頭が回らない）。

今回から学んだこと

◆マスクやアルコール、手袋、ペーパータオルが数日で見事に消えました。毎日使うものなので、今後は半年分の在庫は必要だと考えています。

◆開所以来続けていた標準予防策（スタンダードプリコーション）が大変役に立ちました。人手も時間も費用もかかりますが、続けてきてよかったと思えました。

◆同じものなら安いほう、すぐ届けてくれるほうばかり選んでいたら、見事にストップされてしまいました。物がなくて困っているときに、声をかけてくださったのは、日ごろ親しくしていた知人や同業者、業者の方でした。ありがとうございました。

◆職員も検温することで、健康管理ができるようになりました。

ご家族の不安からお休みされていた方が、家にじっとしていると転倒しやすくなったので、と利用を再開されました。3週間お休みされただけなのに、認知症が進んでおられ、あまりの変化にびっくりしました。デイの役割、効果を改めて実感しています。

（デイサービスセンターやまざと施設長
平野久美子）

感染予防と身体機能低下予防の両面からサポート デイサービス事業

新型コロナウイルス感染について、多くのご利用者様・家族様から心配の声を頂きます。また外出自粛要請を受けて、デイサービスを休まれる方もいらっしゃいます。感染を未然に防ぐため外出を控えたり、他の人と関わらないという対策も大切だとは思いますが、一方で家に閉じこもりがちになると体力や足の筋力が低下、人と話すことがなくなり認知機能が低下したり、日付や曜日の感覚がなくなる等心身状態の悪化を懸念しています。

そこで、当デイサービスでは、毎日複数回の消毒、常に換気を行い密閉空間にしない、利用者様同士の距離を可能な限り離し密集

しない、消毒液を入りに口に設置、全利用者様に毎日新しい使い捨てマスクをお渡しする等の対策を行い、安心して通って頂けるよう最大限努力をしています。ご利用者様には手洗い、うがいの徹底、毎日の体温計測をお願いしています。



まだまだ予断を許さない状況で、この状況がいつまで続くのか不安ではありますが、安心・安全の在宅生活を続けられるよう、感染予防と心身機能の低下予防の両面からサポートをしていきたいと考えています。

（デイサービスセンター 坂野裕也）

職員の仕事への情熱に感激

福祉用具レンタル・デイサービス事業

当社事業内容は、福祉用具レンタル・販売及び住宅改修、半日型デイサービス（定員 18 名×2）、1 日型デイサービス（定員 18 名）、早期認知症予防トレーニングセンター（2 月時点利用者 19 名）の 4 事業所を展開しています。

① コロナ感染拡大の影響で何が起きているのか、これまでとの変化

・顕著に影響が出たのは軽度者中心の半日型デイサービスである。高齢者の感染による重度化や死亡のニュースの拡大につれ、「デイサービスでうつったら怖い、うつすのも怖い」と、本人の心配そして家族の反対もあり、2 月に 6 名、3

月に 24 名、4 月に 19 名の合計 50 名がサービスの自粛をされ、利用者数の約 3 分の 1 である。中重度の 1 日型デイサービスでは、4 月になり 6 名の方が自粛された。利用者数の約 1 割弱。福祉用具においては既存のお客様にはコロナでの変化はないが、申請自体に出かけることへの自粛により、新規利用者が減少している。

② 特に困っていること、何とかしてもらいたいこと

・マスク、アルコール等の余分なストックをしていなかったため、確保出来なかった。やっと買っても高いものでも買わざるを得なかった。

③ 途中経過ではありますが、今回のことから学んだこと

・本社においては半数ずつの出勤とし、テレワークでの仕事を行った。会議等も工夫次第である程度出来ることは分かり、これからの時短と、アフターコロナ対応のきっかけと出来た。

④ その他

・職員には、本人及び家族からの感染リスクによる出社の自粛希望を確認したが、どの職員も仕事を全うしてくれていることに感謝と、勇気をもたらした。

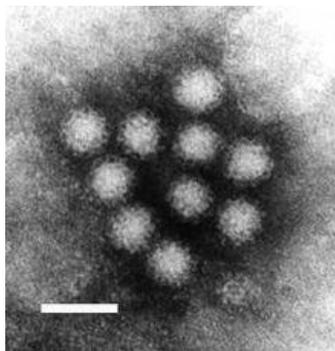
第2波、第3波の来ないことを切に祈ります。

(株式会社安心ライフ 中川宏實)

PCR検査は素早くして欲しい

右京区にある居宅介護支援事業所でケアマネジャーをしています。

4月終わりころに、ショートステイ利用中に37.5℃を超える発熱をした方が2名、デイサービスのお迎えの検温で37.5℃を超えた方が1名おられました。3名とも支援いただけるご家族がおられたので、それぞれの主治医の先生にご家族から相談していただきましたが、いずれも解熱剤を処方され、自宅で様子を見て下さいとの指示でした。この状態では、熱が下がっても、いつサービス利用を再開していいのか分からないため、ご家族から主治医の先生にPCR検査をしてもらおうようお願いしていただきましたが、なかなか検査はしていただけませんでした。3名のうち1名は、訪問看護ステーションから主治医の先生をお願いしてもらってPCR検査をしていただくことができ、陰性との結



在宅介護支援事業

果がでて、安心してサービスを再開することができました。

他の2名は検査を受けられず、ご家族の協力を得ながら、約2週間サービスを休止して過ごすことになりました。ご家族がおられない方で、同様のケースが出たらどのような対応ができるのか不安なことは一杯あります。

先日、加藤厚生労働大臣が新型コロナウイルスへの感染を相談する目安「37.5度以上・4日」を見直す際に、目安の解釈について「我々からみれば誤解」と発言したことに、多くの批判がよせられました。これまで必要な人がPCR

検査を受けられなかったことを真摯に受け止めていただき、感染の疑いがあった場合に、すぐに検査を受けられる体制を早期に整えてほしいものです。

(介護支援専門員 北尾勝美)

新型コロナウイルス感染症問題で感じたこと

母は、グループホームでお世話になってもうすぐ3年が経とうとしています。その間ほぼ毎週末、夫と二人で母に会いに行き、母の体調等を自身の目で確認していましたが、今回のコロナ問題で3月中旬から2か月間一度も会うことができずでした。当然どこの施設でも、入居者の感染症予防のため、家族等外部者との接触は禁止されています。私は長くて1か月ぐらいで終息するだろうと考えていましたが、その考えは甘く約2か月の長期戦となっています。

介護家族

この間、私たちは母のことが気にかかり電話で問い合わせをしたり、施設に訪問し近況を訪ねたりしましたが、実際の姿は見えていません。ようやく5月中旬に施設のご厚意で、玄関横の窓越しに母と対面することができました。母は顔色もよく、職員さんの話では体調面では問題ないとのことでしたが、認知症や難聴の関係からか「きょんとした表情」でした。事前にスケッチブックを用意して行き、大きな文字で「元気になっていますか」「何か食べたいものは

ありますか」「また会いに来ますね」と書いたものを見せると、母はその文字を声に出して読んでいました。いつもなら必ず夫の名前を呼び「俊雄か、久しぶりやな」と言葉を交わし、母が息子（私にとっては夫）の名前と顔を忘れずにいてくれたと安堵の気持ちで帰路についていました。今回は最後まで息子の名前を聞くことはできませんでした。このような状況になるかもしれないと予測していたので、夫には母と会う前に絶対に「誰か分かるか？」と聞かないように伝えていました。それは、以前認知症の勉強をしていた際、誰か分からなかった場合、本人が混乱すると学んでいたからです。でも、実際に夫は、子の立場としてその言葉を口にして確認したかったと思います。自分の名前を呼んでくれなかったことは淋しかったに違



いありません。今回は名前を聞くことは無理でしたが、次回に期待したいと思います。

新型コロナウイルス感染症問題で小・中学校ではリモート授業の必要性が言われています。

施設においても何らかの対策を考えておく必要があると思います。今後第2波を想定し、外出や面会の制限による本人・家族のストレスを軽減するため、すでに行っている施設

はありますがオンライン面会等の整備が必要ではないでしょうか。とはいえ、少しでも早くコロナ問題が終息を迎え、母と目線を合わせ、手を握り、言葉を交わせる日が待ち遠しいです。

しばらくして、母のお世話になっている施設から「ブログ始めます」の連絡があり、コロナがもたらしたプラスの影響もありました。

（笠原あけみ）

新型コロナウイルスの流行と我家

役所の感染症流行状況監視の担当だったとき、たちの悪い新感染症がパンデミックをおこしたらと、考えたことがあった。しかし、東京で人口のわずか0.6%が感染しただけで医療体制が崩壊するとか、世界に警告が発せられ、病原体の構造まで明らかにされているのに巨大なパンデミックがおき、大恐慌以上のダメージを世界経済に与えるとかは想像できなかった。2020年はコロナ元年とよばれるのだろうか？ 未来の教科書にはコロナ前、コロナ後と記載されるのだろうか？

この病の我が家への影響はこうだ。

悪かった点

- ①家族全員、大幅減収になった。労働時間の減った娘は3割以上の減収。大家が仕事の私は借主の方々に値引き要求され、収入は半分以下になった。
- ②私や妻がうっかり風邪をひくと娘に叱られるようになった。会社に報告が必要になる。
- ③趣味の尺八のイベントが中止になった。
- ④妻も私も友人に会いに行けなくなった。
- ⑤母親はグループホームから通うつもりだったダンススクールに行けない。それどころか面会や外出も禁止され、友達や家族にも会えず、私に

介護家族

電話で「早く帰らせろ」と訴えることしかできない。

よかった点

- ①身内や友人で入院、死亡した者はいない。
- ②娘は2週間の休みで仕事の疲れをいやし、お菓子づくりや料理で私と一緒に遊べた。
- ③夫婦や親子で話す時間が少しは増えた。
- ④現役時代の知識で流行の状況と今後を分析して、少し刺激的な気分になった。
- ⑤医療系のグループホームに入所した母親は、訓練された職員との隔離生活で安心。

緊急事態が解除されても生活は先行き不安でいっぱいだ。しかし冷静に考えれば、私たちはいつの時代も突然の新しい事態に必死になじみ、工夫して生きのびてきた。何年かするとこの日々が懐かしく愛おしく思い返されるのかもしれない。少なくとも戦争ではないのだから。

（梶 政彦）



第 105 回
研 修 会
案 内

20 周年記念誌をサカナに意見交流会

日 時：6月20日（土）13：30～16：30

会 場：ひと・まち交流館 京都 3階第4会議室

参加者：会員および参加希望者

参加費：不要 20周年記念誌をお持ちの方はご持参ください！

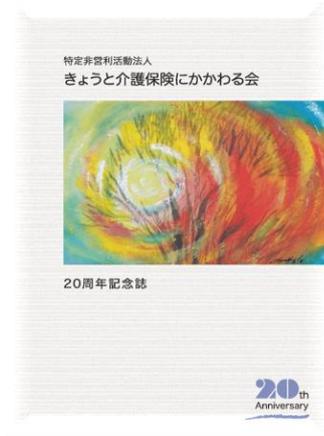
内容：前半は正木編集長および各原稿執筆者から20周年記念誌にかけた思いや感想を話して頂き、後半は参加者との質疑応答、またグループに分かれて自由に意見・感想を出し合います。

おまけ：終了後、自由参加で簡単な打ち上げ慰労会を計画しています。

20周年記念誌を発行しました！

かかわる会の設立20周年を記念して、この度、20年の歩みをまとめた冊子を上梓しました。

会員の皆さんの寄稿はもとより、特別対談や特集記事、関係団体からのメッセージなど盛りだくさんの内容です。



現在の事業も網羅しましたので、かかわる会の紹介などにも活用してください。

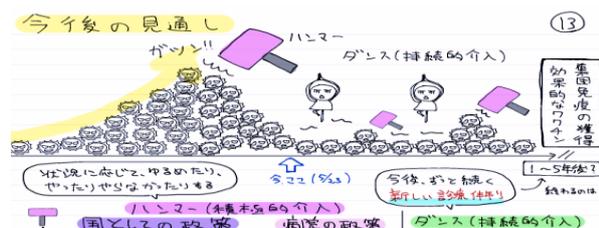
新型コロナのことがよくわかる！

わかったようでわからない新型コロナの全貌を、イラスト付きで分かりやすく紹介しているページを見つけました。

諏訪中央病院のサイト内にある「新型コロナウイルス感染をのりこえるための説明書」は、エビデンスもしっかりしており、介護施設や医療関係者に向けたマニュアルも整備されています。ぜひのぞいてみてください。

諏訪中央病院 HP

<http://www.suwachuo.jp/info/2020/04/post-117.php>



祇園祭りの巡行が中止になりましたが、疫病退散を祈願する祭りが疫病に退散させられるとは皮肉なことです。神頼みしかなかった時代ではないのだから大丈夫、と言い切れないこの国の現況...。なぜこんなに簡単に医療崩壊が起こるのでしょうか？なぜマスクやトレットペーパーが手に入らなくなるのでしょうか？なぜわずか数ヶ月の休業で多くの企業が傾くのでしょうか？

コロナ特集の寄稿文を読んで、コロナ禍の問題の本質が「医療」ではなく「経済」にあるのではないかと思うようになりました。極限までムダを排除し、平常時をギリギリで回すようにデザインされた社会は非常時に対応できません。

コロナ後の世界には「遊びの復権」を唱えたいと思います。(T・M)

新入会員紹介（四月入会）

辻井 一恵さん
井上 加代子さん

七月研修会予告

七月十一日（土）13：30～16：30
ひと・まち交流館京都

2階第1・2会議室

テーマ・講師は調整中

編集後記

祇園祭りの巡行が中止になりましたが、疫病退散を祈願する祭りが疫病に退散させられるとは皮肉なことです。神頼みしかなかった時代ではないのだから大丈夫、と言い切れないこの国の現況...。なぜこんなに簡単に医療崩壊が起こるのでしょうか？なぜマスクやトレットペーパーが手に入らなくなるのでしょうか？なぜわずか数ヶ月の休業で多くの企業が傾くのでしょうか？